

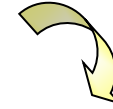
1.1.2.6-01

「は」と「が」の使い分け

1.1.2.6-01_「は」と「が」の使い分け_ナレッジ

- ☞ 1.「は」は「は」の直後が主題で、「が」は「が」の直前が主題である。
「は」と「が」の違いは「は」と「が」の前後どちらが強調されるかということ。

例えば： ○ は ● だ。
● が ○ だ。



という文の場合、常に文が強調したいこと、言いたいことは●の方な訳です。
そのため「何か質問ありますか？」に対する答えとして、重きが置かれるのは、
「ある」か「ない」という事なので、 質問 は ない です。
がナチュラルで 質問 が ない です。

例文①

「●●について齟齬が無い」



「●●について」話題の力点がおかれている

一方、「は」は文章の主体が「が」の前にある場合に使います。

「●●について齟齬は無い」



(齟齬があるのかないのかについて話題の力点がおかれている)

例文②

「問題が無ければ、●●する」



「●●する」ことについて話題の力点がおかれている

「●●することについて問題は無い」



(問題があるのかないのかについて話題の力点がおかれている)

1.1.2.6-01_「は」と「が」の使い分け_ナレッジ

- ☞ 2. 通常は、名詞文・形容詞文の主語は「は」、動詞文の主語は「が」で示す。
- ☞ 3. 名詞文・形容詞文の主語を「が」、動詞文の主語を「は」で示すと、他を排除して該当者を特定するような解釈となる。
- ☞ 4. 「行為・意思」のように、行動するもの、あるいは行動に結びつくものは、「を」をとる。
「願望・可能」のように、頭の中で考え、口で言っているだけですむものは、「が」をとる。
状況とか状態について記述する場合です。
- ☞ 5. 主語の後に使う助詞は「・・・は」は、すでに周知している情報
「・・・が」は、未知の情報 になります。

例えば：

旬の「いちご」が美味しいのはみんなが知っているので

誤) 旬に食べる「いちご」が、美味しい！

正) 旬に食べる「いちご」は、美味しい！

水が溢れているかどうかは見に行かないと分からないことなので

誤) 水は、溢れている

正) 水が、溢れている

1.1.2.6-01_「は」と「が」の使い分け_応用例

No.	が	は
1	主語(主語を表すだけ、主語を強調、排他性がある)	主題(主語と客語を表す)
例 1-1	答え:私が田中です。(他人ではなく、私です) 疑問:誰が田中ですか。	答え:私は田中です。(佐藤さん山下さん誰でもない) 疑問:あなたは誰ですか。
例 1-2	答え:お酒が飲みたい。 疑問:何を飲みたいですか。	----
例 1-3	答え:ここが静かです。 疑問:ここが静かですか。	答え:ここは静かです。 疑問:ここはどうですか。
2	未知の情報を表す、第一回目と疑問詞を含めている	既知の情報を表す
例 2-1	どれがあなたの傘ですか。	あなたの傘はどれですか。
3	目の前の現象を表す	普遍的な本質を表す
例3-1	この桜が美しいです。(ほかの樹木ではない)	桜は美しいです。(全ての桜を表す)
例3-2	----	地球は丸いです。
4	複合文で従文の次主語を表す	複合文で主文の総主語を表す
例 4-1	お姉さんが帰ったら、ご飯を食べます。	お姉さんは帰ったら、ご飯を食べます。
例 4-2	電車がなかなか来ないで、もうすぐ来ると思う。	電車はなかなか来ないで、もうすぐ来ると思う。 ⁴

1.1.2.6-01_「は」と「が」の使い分け_応用例

No.	が	は
5	対象語。可能、願い、感じ、存続	-----
例 5-1	ができる・できない 上手・下手 好き・嫌い	
6	語尾で逆接と語気を緩和することを表す	-----
例 6-1	この料理はおいしいですが、ちょっと高いです。 (逆接)	-----
例 6-2	ちょっとすみませんが。(語気を緩和すること)	-----
7	-----	否定文での助詞「が・を」は「は」を変換して、 他の助詞の後で「は」を加えて、強調する
例 7-1	-----	「僕は水は 飲みたい、でもお茶は飲みたくな い」といった形をとるのです。(を⇒は)
例 7-2	-----	私は鈴子さんとは結婚したくありません。(と+ は)
8	-----	複数の「は」を連用して、対比を表す。
例 8-1	-----	私はバドミントンは上手ですが、卓球は下手で す。 ※第一の「は」は主題、「が」は転換を表す、第 二と第三の「は」は対比を表す